

世界法研究会・世界法学会の記録（1965～1990年の記録は『世界法年報』第10号に掲載）

第1回 1965年4月26日 国際基督教大学

田畑茂二郎 世界連邦大会“東京提案”及び“サンフランシスコ大会”について」
小谷鶴次 武力の国際化

第2回 1965年10月12日 京都外国語大学

平井友義 軍縮問題における動向
香西 茂 国連軍の現状と将来

第3回 1966年4月24日 関西大学

小森義峯 世界連邦成立のための制度的諸条件
黒田了一 新諸国における憲法の動向

- - 1967年 休止 - -

第4回 1968年5月16日 京都外国語大学

小谷鶴次・安藤仁介 WAWFと国連軍 - - オスロ大会に出席して
香西 茂 国連待機軍について

- - 1969年 休止 - -

第5回 1970年5月14日・15日 広島大学（会場：広島平和記念館）

高野雄一 世界秩序の将来
内山正熊 軍縮と世界法
深津栄一 世界法と紛争処理法式
香西 茂 軍備撤廃と国際警察

第6回 1971年4月12日 明星大学

横田洋三 将来の国際秩序における国際公社の役割
佐藤和男 経済開発と法

第7回 1972年5月14日 岡山大学（会場：岡山安田生命ビル）

高野雄一 田中耕太郎博士の「世界法の理論」について
深津栄一 ソーン教授の「世界法の概念」について
田畑茂二郎 コーベット教授の「世界法の概念」について

- - 1973年 休止 - -

第8回 1974年5月11日 名古屋大学

齊藤恵彦 国際法における目的論的解釈 - 田中博士のICJにおける見解とその起源
渡辺幸生 ロカルノ諸条約について

第9回 1975年5月9日 日本大学(会場: 学士会館本館)

宮崎繁樹 人権と世界法
香西 茂 第2次中東国連軍について

第10回 1976年5月23日 京都外国語大学

堀部博之 多国籍企業活動の国際的規制
芹田健太郎 海洋環境の国際的保護

第11回 1977年5月21日 青山学院大学

中村 道 米州機構における紛争の平和的解決 - - 米州平和委員会の展開を中心に
高橋通敏 アラブ世界の統一と分裂

第12回 1978年5月15日 京都産業大学

佐藤和男 新国際経済秩序の形成過程と課題
桜井雅夫 途上国における外国企業の現地化

第13回 1979年5月14日 明治大学

田畑茂二郎 人権と民族自決権
前田 寿 軍縮への一歩としての平和地域の構想

第14回 1980年5月19日 神戸市外国語大学

古川照美 世界新秩序のための憲法
位田隆一 新国際経済秩序の法的構造

第15回 1981年5月18日 中央大学

小谷鶴次 世界新秩序のための憲法
古賀 衛 Common Heritage of Mankind 概念の展開

第16回 1982年5月17日 福岡大学

石本泰雄 国際法の構造転換への始動
藤田久一 軍縮への法的アプローチ - - 軍縮義務形成の条件

- - 1983年 休止 - -

第17回 1984年5月13日 大阪大学

松井芳郎 友好関係宣言と自決権 - - 自決権の普遍的適用を中心に - -
横川 新 国際投資と国際経済秩序

第18回 1985年5月13日 慶応義塾大学

安藤仁介 政府承認制度の再考察
村瀬信也 国際立法過程論の存立基盤

(以上、『世界法年報』第10号)

第19回 1986年5月17日(土) 関西大学

香西 茂 平和維持活動の「ガイドライン」について
最上敏樹 国際機構と国際社会の組織化 - - 米国のユネスコ脱退を中心的素材として

第20回 1987年5月16日(土) 一橋大学

宮崎繁樹 国際人道法の世界法的側面
浅田正彦 国際法における新兵器の取り扱い

第21回 1988年5月14日 神戸商船大学

斎藤恵彦 世界法概念について - - 田中、恒藤両博士の概念をめぐって
Ernst Zitelmann "Die Möglichkeit eines Weltrechts"(1888)100周年を記念して

真山 全 第2次大戦後の武力紛争における中立法規の適用について - - 海上経済戦の事例を中心に - -

第22回 1989年5月13日(土) 日本大学

メインテ - マ 「明日の国連」と日本
筒井若水 戦後日本と国際連合
小寺 彰 平和維持と国際機構
波多野里望 国連の平和維持と日本
位田隆一 経済・社会協力と国連機構
緒方貞子 アメリカ国連協会の報告書について

第 23 回 1990 年 5 月 14 日 (月) 金沢大学

< 世界法研究会発足 25 周年 午前・午後を学会に当てる >

共通テ - マ 「国際法の新領域と取り組む国際機構」

功刀達朗 国連の諸活動と国家主権

平 覚 国際機構の特権免除と国家主権

黒沢 満 軍縮と国際機構

岩間 徹 環境と国際機構

第 24 回 1991 年 5 月 11 日 (土) 早稲田大学

渡部茂己 国際連合総会の意思決定手続 - - 諸国際機構における動向との比較を中心に

大泉敬子 イラク・クウェート問題と国際連合の平和保障機能

シンポジウム：地域統合の現状と将来

横田洋三 問題提起

大谷良雄 EC 市場統合の法的性格と現段階

大島美穂 東欧・北欧

中村 道 米州機構の現状と課題

則武輝幸 アフリカ統一機構を中心とするアフリカ

渡辺昭夫 アジア・太平洋地域

第 25 回 1992 年 5 月 18 日 (月) 龍谷大学

統一テ - マ 「開発と環境」

午前：サブテ - マ 「開発法の新しい展望」

西海真樹 開発の国際法における「規範の多重性」論

高島忠義 ロメ協力における環境問題

午後：サブテ - マ 「環境保護の国際システム」

富岡 仁 海洋環境の国際的保護に関する法制度

磯崎博司 地球生命系の保全に関する法制度

第 26 回 1993 年 5 月 15 日 (土) 青山学院大学

(午前：個別報告)

川崎孝子 リージョナルな共通利益と領域管轄権

川上壮一郎 内陸国と海洋法 - - 配分をめぐる若干の考察

(午後：統一テ - マ 「国際裁判の今日的意義」)

山形英郎 国際紛争解決システムにおける司法的解決の意義

牧田幸人 国際司法裁判所の役割

第 27 回 1994 年 5 月 14 日(土) 名古屋大学

共通テ - マ 「世界政府思想と今後の国際連合」

神余隆博 国連の普遍化と総会の機能

筒井若水 集団安全保障と安全保障理事会の役割

村上正直 人権保障の国際化と国際連合

講演

加藤俊作 世界連邦運動から見た国際連合

田畑茂二郎 世界政府論の提起するもの

第 28 回 1995 年 5 月 13 日(土) 成城大学

全体テ - マ 「現代国際社会における普遍的な法概念の意義」

午前の部サブテ - マ 「人類の共通利益の追求」

田中則夫 国連海洋法条約第 11 部実施協定の採択

長田祐卓 南極制度における人類利益と機能主義

午後の部サブテ - マ 「人道の概念と国際刑事管轄権」

岡田 泉 「人道に対する罪」概念の形成と発展

小笠原一郎 国際刑事裁判所について

第 29 回 1996 年 5 月 11 日(土) 京都学園大学

全体テ - マ 「地域統合とアジア・太平洋」

山影 進 地域統合の潮流とアジア・太平洋

Paik Jin Hyun The Regional Security System in the Asia Pacific

Suthy Prasartset Economic Integration of Asia-Pacific and the Role of APEC

阿部浩己 地域人権機構とアジア・太平洋

第 30 回 1997 年 5 月 12 日(月) 國學院大學

全体テ - マ 「二十一世紀の海洋秩序と日本」

基調講演 小田 滋 国際海洋法秩序の 50 年

吉井 淳 領海基線

村上曆造 接続水域

井口武夫 排他的経済水域・大陸棚

古賀 衛 紛争解決 - - 海洋法の手続法的発展

第 31 回 1998 年 5 月 9 日(土) 立命館大学

全体テ - マ 「核兵器をめぐる世界的動向」

城 忠彰 非核兵器地帯の意義

浅田正彦 NPT・IAEA体制の新展開 - - 保障措置の強化策を中心に - -

辻 優 核実験の国際的規制の展開

藤田久一 核兵器をめぐる法と戦略の交錯

第32回 1999年5月8日(土) 国士舘大学

全体テーマ 「地球環境保護の法制度 - - その現状と課題」

村瀬信也 国際環境レジームの法的側面 - - 条約義務の履行確保

田村政美 気候変動枠組条約制度における締約国会議の決定の意義

池島大策 南極における環境保護の制度

白杵知史 地球環境保護条約における履行確保の制度 - - オゾン層保護議定書の「不遵守手続」を中心に

石橋可奈美 国際環境紛争処理に関する一考察 - - ガブチコボ・ナジュマロッシュ事件を手がかりとして - -

第33回 2000年5月13日(土) 京都産業大学

統一テーマ 「20世紀の国際法と国際法学」

柳原正治 いわゆる「無差別戦争観」と戦争の違法化 - - カール・シュミットの学説を手がかりとして - -

森川幸一 紛争の平和的処理と強制的処理との関係 - - H.ケルゼンの学説を中心に - -

松田竹男 ソビエト国際法の挑戦と挫折 - - G.I.トウンキンの学説を手掛かりに - -

大森正仁 国際責任法理論と戦争法・武力紛争法 - - D.アンチロッチの貢献 - -

小畑 郁 世界公共圏の構築としての「国際法の重層化」

- - 後期ウォルフガング・フリードマンの法プロジェクト - -

第34回 2001年5月12日(土) 明治大学

全体テーマ 「非国家主体と国際秩序の変容」

薬師寺公夫 トランスナショナル・ローの現代的意義

- - 非国家主体と国際法の課題 - -

中谷和弘 企業間合意の国際法上の意義と限界

桐山孝信 「民族紛争」と自決権の変容

古谷修一 国際法上の個人責任の拡大とその意義

- - 国家責任法との関係を中心として - -

西立野園子 NGOの役割の拡大と国際法上の地位

第35回 2002年5月11日(土) 金沢大学

統一テーマ：国際法学の方法

明石欽司 国際法学における実証主義の史的系譜 - - 18世紀における「実証主義」の内
実を中心として - -

坂元茂樹 条約解釈の神話と現実 - - 解釈学説の終焉が意味するもの

奥脇直也 過程としての国際法 - - 実証主義国際法論における法の変化と時間の制御

パネル：国際法方法論の新潮流

酒井哲哉 国際関係論の成立と国際法学 - - 日本近代史研究からの一考察 - -

酒井啓亘 批判法学の国際法ディスコース - - 現代国際法の「近代性」への挑戦とその
意義 - -

申 恵壬 国際法学とジェンダー - - フェミニズム国際法の問題提起